

令和元年 8 月 9 日

浜田市議会

議長 川 神 裕 司 様

議会広報広聴委員会

委員長 小 川 稔 宏



委員派遣報告書

下記のとおり、派遣しましたので報告します。

記

- 1 期間 令和元年 7 月 10 日（水）～12 日（金）
- 2 視察先及び目的
 - (1) 愛知県犬山市 犬山市議会
ア 市民フリースピーチ制度について
 - (2) 愛知県小牧市 小牧市議会
ア こども議会について
 - (3) 愛知県安城市 安城市議会
ア 議会ホームページの PR 動画をはじめとした議会活動の広報手法について（ICT も含めて）
イ 議会だより作成にかかる高校生とのコラボレーションについて
 - (4) 兵庫県揖保郡太子町 太子町議会
ア 議場コンサートについて
イ 議場で Let's study! について
- 3 精算額 1 人当たり 64,910 円
※ただし笹田委員は 7 月 11 日から出席のため 49,770 円
- 4 派遣委員名
小川 稔宏、川上 幾雄、三浦 大紀、沖田 真治、
西川 真午、村武 まゆみ、笹田 卓、芦谷 英夫、
田畑 敬二、澁谷 幹雄
- 5 随行 主任主事 近重 昌徳
- 6 調査の概要 別紙報告書のとおり

以上

愛知県犬山市議会視察報告

視察日時 令和元年 7 月 10 日（水） 13 時 30 分～15 時 30 分

相手方説明者 犬山市議会前議長 ビアンキ・アンソニー
犬山市議会議会運営委員長 三浦知里
犬山市議会事務局 議事課長補佐 粥川 仁也

報告者 浜田市議会広報広聴委員会 澁谷幹雄

視察内容 市民フリースピーチ制度について

- ビアンキ・アンソニー前議長は、ニュー Yorker。議長時代の H29 年からスタート。傍聴の市民が議長の指名によって議案に対して発言できるアメリカの地方議会の手法を取入れたもの。
- 実施の目的は、市民の役に立つ議会になるため←議会の使命
- 7 人の市民が、一人 5 分の時間内に、自分の意見や提言を、本会議場の壇上で自由に話す。
- 定例会中の日曜日や夜など、市民が参加しやすい時間帯に開催している。
- その提案された内容を、全員協議会で全議員が討議する→数件提案できれば可。
- 犬山市議会では、H22 年から、全員協議会や常任委員会で議員間討議を行い、その成果を政策提言としてまとめており、討議が根付いていることが背景にある。
- フリースピーチは本会議場で行うことに意義がある
一議場に親しみを持ってもらえる。
- 今後も、市民参加による議会の機能強化に取り組みたい←女性議会・議長室を開放する「オープンドアポリシー」など。
- 本当の改革につなげる。
- 議員の意識改革が重要。
- 年間 30 議会の視察があるが、現段階ではこの「市民フリースピーチ制度」を導入したという議会は、聞いてない。

【所感】

私の質問の趣旨は次のとおり。

- ① 間接民主主義は、広く市民の声を聴き、議員が発言や政策立案に役立て、住民福祉の向上につなげる制度ではないのか？
- ② 市民のフリースピーチを取り入れるということは、現在の議会制民主主義、間接民主主義の限界を感じているのか？
- ③ ソクラテスやプラトンといった古代ギリシャやローマのような（ということは、生産現場では奴隷制度が存在していたわけだが）直接民主主義を志向しているのか？

⇒などについて、前議長から回答がされた。

全員協議会における、全議員による議員間討議については、浜田市議会も取り入れなければならない、と思った。なぜなら、私は最近、浜田市議会の「一般質問」のレベルが劣化しているのではないかと、思うことが多く、その打開のために、議員間討議を取り入れることで、議論するという、執行部との論戦に向けてのトレーニングの一助にすべきではないか、と感じたところだ。秋の視察を中止と考えていた「議運議会運営委員会」の視察を10月に行って、先進議会の「議員間討議」「自由討議」の手法を身に着ける必要性を強く感じたことは成果だ。



愛知県小牧市視察報告書

【期 間】令和 元年 7月 11日 9:00～10:30

【視察先】愛知県小牧市議会

(1) 副議長 稲垣 守

(2) 小牧市議会事務局 議事課 議事調査係長 森本 雅彦

【調査内容】子ども議会の開催について（目的）

【説明者】教育委員会事務局 学校教育課

課長 堀田 正二

指導主事 栗木 健二

伊藤 将

【概要】

『子ども議会』は、平成 17 年度の市制 50 周年、平成 27 年度の市制 60 周年の周年事業として開催してきたが、平成 31 年度から計画期間とする新しいまちづくり推進計画の策定に合わせて開催することにより、まちづくりにこどもの子ども声を取入れるとともに、こどもたちの社会性を育み、市議会の仕組みを学び、市政に興味・関心を持ってもらうために実施された。

【内容】

- ・平成 30 年度子ども議会の特色を出すためにキャッチフレーズを考えてもらう。
- ・こども議員として自分たちが考える小牧の将来像について、理事者（市長及び執行部）質問や提言を行う。
- ・質疑応答の流れ

質問・提案⇒答弁⇒子ども議員感想⇒市長コメント

【参加者】

1 子ども議員 市内中学校（9校）の生徒（各校3名：男女3名）

2 市議会（議長開会式あいさつ、記念撮影）副議長（記念撮影）

3 理事者 市長、副市長、教育長

4 傍聴者 傍聴手続きは不要とする。また、立見も可とする。

5 事前研修会

第1回6月9日 第2回6月23日 第3回7月28日

6 その他

(1) 各校の発言通告書は、第3回事前学習会以降に各課へ送付

(2) こども議員のグループワークを支援するサポーターとして平成 30 年度新規採用職員 9 名配置：サポーター役割・タイムキーパーファシリテーション

(3) こども議会をインターネット及びケーブルテレビで生中継

(4) 開催後は、こども議会だよりを作成し、全中学生（約 4,200 名に）配布

【質問項目】

質問 議員がすべて中学生ですが、議員の選出方法について

回答 各学校では、基本的に生徒会からこども議員を選定したと聞いている。

質問 参加者やサポーターの募集方法について、また今後にかかる工夫・問題点について

回答 こども議会の参加者はこども議員、サポーター、事務局（教育委員会職員）の3者で、当日は保護者及び教員、市議会議員、地域の方などが任意で傍聴のお願いをした。

質問 質問や提案事項を検討するサポートについて

回答 質問は、こどもたちが日頃学校生活の中で疑問に感じていることや市の仕組みについてもっと改善したいと感じていることに意見を出し合ってもらった。サポーターは、こども議会開催前に3回行われた事前研修会にて、進行と時間管理を主に担当し、必要に応じて市の施策などの情報提供を行った。

質問 こども議会開催後、意識の変化について

回答 アンケートの結果、9割以上のこども議員が『市・市議会への関心が高くなった』と回答している。

自由意見では、下記の記述があった。

- ・緊張したけど学校生活では体験できない貴重な経験であった。
- ・参加していない友達やクラスの人にもこども議会のことを伝えていきたい。普段感じていることを市に伝えられる貴重な経験になった。

質問 提案事項が中学校毎に視点が違って楽しかった。

回答 こども議会での提案事項については、各担当部署へ今後の施策の参考資料として活用していくこととしている。提案したこども議員に対しては個別にはフィードバックはしていない。

質問 主権者教育の観点からの評価について

回答 選挙権を数年後に有する中学生に、自分たちが考える社会の課題について意見を述べ、政策提案することを通じて、自らが市政に参画する経験し、またそのことに意義を感じていることが、アンケートの自由意見において汲みとれた。主権者教育の観点からも評価できると考えている。

まとめ

- 1 小牧市議会においてのこども議会は、発案者が市長であり、教育部局と連携して取り組んでいる。(こども議会の実施要綱を作成)
- 2 市議会の役割は、こども議会開会および閉会の挨拶のみであり、各議員は傍聴のみであった。
- 3 選挙権を数年後に有する中学生に、自分たちが考える社会の課題について意見を聞き、政策提案する場を設け実施すべきと感じた。
- 4 中学生が自からが市政に参画を経験することは、大変に重要であり、次世代を担うこどもたちにも、まちを元気にするためにも必要であり、浜田市議会も取り組みたい。



愛知県安城市行政視察報告

【期日】 令和元年7月11日（木）14時～16時

【場所】 安城市議会

議長 二村 守、安城市議会議員 深津 修、法福 洋子
安来市議会事務局 議事課長 鈴木 勉、議事係長 長谷部 剛志

【概要】

- ① 安城市は、昭和27年5月5日市制施行、県下13番目の市として誕生、平成29年5月5日市制施行65周年を迎えた。明治用水の豊かな水に生まれ「日本デンマーク」と呼ばれ農業先進都市として発展してきた。中部経済圏の中心である名古屋市から30キロのところであり、豊田市などの内陸工業都市、碧南市などの衣浦臨海工業都市に隣接し、自動車関連企業など大企業の進出、住宅団地の整備が進められ、急速な都市化が進んだ市である。
- ② 人口は、市制施行当時約3万8千人であったものが、現在は18万4千人にまで増加しており、農業・工業・商業のバランスのとれた都市となっており、平成28年度からは、目指す都市像を「幸せつながる健幸都市 安城」とする、第8次安城市総合計画をスタートさせている。（以上、二村議長のあいさつから）
- ③ 安城市議会では、市民に開かれた市議会の実現を目指し、効率的で迅速な議会運営、議会の活性化、危機管理体制の強化など議会改革を進め、市民に信頼され機能する議会とするため、その手段として議会でのICT技術の積極的活用な推進、議会の見える化などを進めている。
- ④ 市議会のICT推進基本計画は、議会ICT推進プロジェクトチームが中心となって作成し、平成27年11月25日の議会改革検討委員会で承認され決定し、よりICT化を具体的に推進するため、平成31年度から第2次安城市議会ICT推進基本計画に取り組んでいる。
- ⑤ 議会ICT推進プロジェクトチーム、議会だより編集委員会は、議会運営委員会の下部組織として位置付けている。
- ⑥ 市議会では議会改革を進めるため、平成22年7月に市民アンケートを実施し、その結果「議員が何をしているか分からない」が70%、「開かれている議会である」と答えた市民がわずか15%、などであったことから、議会だより、HPなども市民への説明責任、議会改革の一環として取り組んだ。
- ⑦ 平成28年2月全員協議会からタブレット端末の導入、スマートフォン・タブレット端末への議会録画映像の配信、議会のペーパーレス化、議場などのWi-Fi化の実施、インターネットライブ中継の実施など議会改革と見える化を進めている。

- ⑧ 議会外でタブレットを活用でき、議員活動に携帯し市民の現場でも、条例や補助金要項などが見ることができ、説明でき質問に即答することができる。
- ⑨ SNS 上では即発信しており、HP は「やるじゃん ANJJO！」とし少しくだけで、若い人になじませる「キッズコーナー」を設け、子どもたちに市議会のことを学んでもらっている。HP や議会だよりでは時間がかかるが、LINE でも即発信しているが、情報が多くなり市と市議会で一元化した発信が必要である。
- ⑩ サイドボックスを活用しており、議会事務局から情報が入り議会日程などの調整や決定が容易になり、議員自身、グループの日程管理もでき、議員への通知もできる。フォーマットに資料を入れており、行政視察などの事前の勉強ができ深い質問ができる。
- ⑪ 市議会では、高校生とのコラボレーションを進め、令和元年 5 月号から高校生の感性を生かした自由な発想による作品を「あんじょう市議会だより」の表紙に採用し、裏表紙には作品を創作した生徒との対談記事を掲載するなど、多くの市民に親しみのある議会だよりとしており、年 4 回発行している。(その他詳細は資料)
- ⑫ 市民に開かれた議会とするため、市民への関心を高めるためとして、兵平成 30 年 12 月議会では、議場コンサートとしてジャズ演奏を行った。

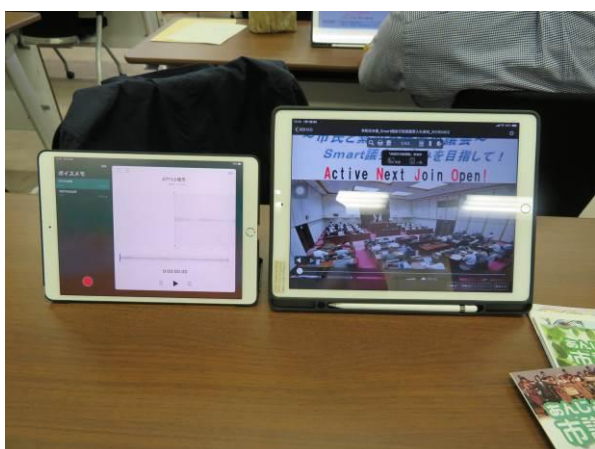
【質問事項に対する回答】

- ① 議会 HP、PR 動画などのシステム構築にかかった費用は、イニシャルコスト 470 万円、ランニングコスト年 17 万円。
- ② HP リニューアルの効果は、アクセス数が増加している。
- ③ 従来どおり紙ベースで配布する資料は予算書、決算書で、3 月議会では多くなる。6 月、12 月議会の議案書は希望者のみ (6 人) に紙資料を配付し、他はタブレットで見ている。
- ④ タブレット端末による電子採決システム導入のメリットは、起立方式であった採決が、電子採決で大型モニターに表示され、みんなによく分かるようになった。
- ⑤ ICT 推進の取り組みによる効果として、ウェブに請願などを載せることで検索しやすくなったが、市民からの相談、陳情、請願件数は増えてはない。
- ⑥ 高校生とのコラボレーションは始まったばかりで、5 月 1 日号から議会だより表紙の創作をお願いした段階で、これからのあり方、拡大は検討したい。
- ⑦ 高校生との接点を持つ取り組みについて、議会運営委員会の行政視察で、高校生議会、高校生との意見交換会をしているところの視察を予定しており検討したい。
- ⑧ 市制周年事業として平成 4 年から中学生議会をしており、「未来ゆめ中学生議会」として、8 中学校から 3 人、24 人が参加し議員席に座り、通告制とし、一問一答方式で市長、副市長、教育長などが答弁を行う。

【質疑応答】

- ① 議会だよりの表紙に注目したのは、これまでの発行で表紙づくりに困っており、問題意識があり、高校からも協力していただいた。
- ② 市民アンケートは 2,000 人を対象とし、1,000 人未満の回答があった。HP によるアンケートを実施し、それ以後の活動はしていない。評価 PT を立ち上げ、これからどう活かすか検討したい。
- ③ 議会だよりの編集の課題は、採決の内容は会派で載せている、ページ数の制約もあり、手探りの状況である。
- ④ HP のリニューアルは、プロポーザル方式で行い、1,000 万円から 470 万円の提案があった。
- ⑤ PR 動画 3 種類を増やすことは、予算と内容との関係でこれから検討する。
- ⑥ 中学生議会の主体は議会であるが、実質は学校との関係で教育委員会が中心となっている。
- ⑦ Wi-Fi が特定のユーザーとなっているのは、セキュリティの関係である。これまで大きな攻撃は受けていないが、フリー化するよう陳情が出ている。

—以上—



太子町視察報告書

1 期間 令和元年7月12日（金） 午前9時10分～11時

2 調査研修内容

- (1) 議場コンサートについて
- (2) 議場でLet`s study!について

3 研修先 太子町議会

議長 藤澤 元之介

太子町議会事務局 局長 大谷 員代、副局長 森 文彰

4 調査研究活動の概要

(1) 議場コンサートについて

- 町民の観客数については、太子高等学校Jコーラス部（約60名）に対して観客数は約15名、コールひまわり（22名）に対して約20名。
- 議会運営委員会が代表者に依頼し、謝礼はなし。
- 定例会前の15分に実施した。
- 特に目立った感想・評価は聞いていない。
- 本会議の傍聴につなげたいが、傍聴者の増加に連動していない。

(2) 議場でLet`s study!について

- 議会棟にある議場スペースは「議会のときは議場、閉会中は多目的ホール」との考え方から自習室としての利用を考えた。
- 自習室であれば、基本的に利用者自身が時間配分し、ルールを守りながら空間を利用するだけであるから、職員の勤務時間内で実施が可能で手間も最小限に抑えられ、かつ一定期間継続的な施設稼働が可能と考えた。
- 単に空き部屋を開放するということではなく、利用対象者を中学生以上とし、近い将来に太子町を担う子どもたちが、実際に議会で議員が使用している机や椅子を使用し、町長や議長等の名札を立てる等、本物に接することで感性や夢を育む仕掛けを盛り込んだ。
- 全体の約8割を中高生が占めている。
- 学習を目的に利用していることから、機器の故障や利用者間のトラブルもなかった。

5 Q&A

質問 一般質問前のコンサートの評判は？

回答 町民から議員が歌わせたというクレームがあったが、議員からのクレームはなかった。

質問 他に自習ができるようなスペースが町内にあるか？庁舎の立地的にどうか？

回答 図書館との目的は異なる。自習室というニーズは高いと感じている。他市町では公共施設の空きを一覧にして公開している事例もある。

質問 学生の意識向上に対する取組は？

回答 空間提供による関心向上は効果的と考える。訪れた学生に意識改革していくような取組を選挙管理委員会と相談していく。

質問 今年度は議員がどのように関わるのか？

回答 議員の意識がかわったことが大きかった。議員からアイデア提供もあり、聖徳太子もからめたい。

6 所感

- 議場開放が傍聴者増加に繋がるとは考えにくいことから、今後浜田市を担う子どもたちのために取組んでいく必要がある。
- 議場利用については、市民から利用方法について、調査することも必要ではないか。
- 議場利用は、事務局負担を最少限に抑える必要がある。

